

【児童への話】

今日は11月7日です。二十四節季では、立つ冬と書いて「立冬（りっとう）」となり、暦の上では今日から冬となります。校長先生の大好きな秋はあっという間に過ぎていってしまいましたが、サンマや栗や銀杏、5年生と採ったリンゴなど、美味しいものがたくさん味わえました。来年の秋をまた楽しみにしています。

さて今日は、「算数や理科のすばらしさ」について、お話しします。

明日11月8日の夜、すばらしいショーが予定されています。何だか知っていますか？答えは「月食（げっしょく）」です。今回の月食は、日本のほぼどこでも観ることができる、美しい天体ショーです。

明日は、太陽と地球と月が一直線に並び、地球の影に月の全部がすっぽりと隠れてしまう「皆既月食」です。東京ではほぼ真東の空に、夜の6時9分から少しずつ月食が始まり、7時16分には完全に月が隠れてしまう皆既月食となります。そこから8時42分までの1時間26分ほどの間は、赤く黒ずんだような赤銅色（しゃくどうしょく）の月が観察できます。そのあとは少しずつ月の光が戻り始め、9時21分にはもとの丸い形に戻るそうです。皆さんもぜひ、明日の夜6時過ぎから、壮大な天体ショーを楽しんでみてください。

このことで校長先生がすごいなあとと思うのは、月食そのものではなく、「これほどに正しく、月食の時間や方角が予測できる」ということです。実は百年以上先の日食や月食まで完全に予測できると言われているのですが、これには、星の動きなどの天体観測データに基づく「天文学」と、綿密な計算に基づく「数学」が大きく関わっています。人間が長い年月をかけて研究し、発展してきた算数や理科に関する学問が、自然現象の解明や科学技術の発展に大きく影響していることがよく分かります。また、「音楽」と理科や数学との結び付きはとても強く、音楽が好きで得意な人は理科や算数の学習もよくできると言われています。学習って、とても不思議でステキなものです。番町小の皆さんには、どのような学習にも前向きに、自分から進んで取り組む態度を身に付け、幅広い分野で活躍できる人になって欲しいと思います。今日は、「算数や理科のすばらしさ」についてお話ししました。

【本講話について】

昨年11月に引き続き、今年も月食が起こります。日食（2012年の金環食は感動でした）や月食などの話題を聞くと、私はこの高度に発達した数学や物理学のすばらしさを強く感じます。「暦（こよみ）」を作ることは科学技術の結晶であり、人々の生活に深く根差す学問の大本ともいえるものです。

本校の子どもたちには、理数教育によりその便利さ、楽しさ、美しさを味わい、人類の発展に資する人として世界に羽ばたいて欲しいと願っています。そのための豊かな体験的な学習を次年度以降行えるよう、鋭意準備中です。ご家庭で8日火曜日の夜6時過ぎ、東の夜空を眺め、雄大な天文の世界に浸るのも一興ですね。